

第 101 回 応用化学セミナー

題 目： 出版社から見た論文執筆の基礎、ノウハウと
査読プロセス

講 師： 浦上裕光 (Royal Society of Chemistry)

日 時： 令和元年 12 月 18 日 (水) 16:15~17:45

場 所： B3 棟 1 階 117 教室



(概要) 学術論文は Title, Abstract, Introduction, Experiment/Method, Discussion, Results のような一定の構造と構成要素を持ち、それぞれの構成要素には役割があります。この役割を理解した上で執筆を進めることは、読み手の理解を助け、関心を引き、研究の重要性をアピールするためのもっとも基本的な手続きとなります。本講演では学術論文の基本構造と各構成要素の役割を具体例を交え説明します。

浦上さんは英国王立化学会発行学術雑誌(RSC ジャーナル)のプロモーションで日本全国の学会を飛び回る RSC ジャパンのマネージャーです。ご自身も博士の学位を取得されており、あらゆる分野の化学情報に精通しておられます。今回はこれから修士・博士論文を書く学生にも有益なお話を伺えると思います。奮ってご参加ください。

(世話人： 応用化学分野 久本秀明 (内線 5887))